

雑感「風土を知る」

住職 千坂げんぼう

今季の冬は寒暖の差が著しいので、人によつては気象庁の暖冬予想が間違つたのではないかという。確かに立春前後の寒波はかなり強力で、一関では数年ぶりにマイナス十一度を記録した。

その時期、トピックスにあるように私は猛烈な寒波の中、「にほんの里100選」に選定された萩荘の「久保川イーハトーブ世界」の生物多様性に満ちた世界を紹介するため、金沢の催しに向かった。

行くときは、すでに寒気団が居座り始めたときで、上越新幹線の長岡から乗り換える信越線は連休であつた。私の利用する越後湯沢から出発する「はくたか号」は、三十分ほど遅れたが無事金沢に連れて行つた。途中の十日町は、さすがに豪雪地帯で知られるだけに、大変な積雪で、ラッセル車などで運行を可能にしてくれる有り難さを感じた。

金沢は風が強かつたが、雪は一関とあまり変わらない程度で、気温も一関より二〜三度高く、想像したより冬も住み心地が悪くはなさそうと感じた。ホテルの従業員に聞くと、近年は雪が少なくなつたとのこと、暖冬化の傾向はどこにも現れているようだった。こ

れなら、明日も予約した「はくたか号」で帰れそうだと高をくくつたのが大間違い。

翌日の朝食後、会場に向かい打ち合わせをするも、かなりの汽車が連休になつてゐること。予定を切り上げ、私の出番が終了してまもなく金沢駅に向かい、米原経由の東海道新幹線で何とか帰る算段が出来たが、心身ともに疲れたことこの上もなかった。

しかし、この困難さを体験して、金沢地方と越後地方との気候条件の違いをしつかり学べたのは収穫だったから、この旅は記憶に残るものとなろう。

かつて祥雲寺の団体旅行で、金沢、能登、琵琶湖東岸も歩いているのだが、お任せ旅行で、しかも大過なく終わるとそれだけで安心してしまい、学ぶことが少なかった。ところが最近、自然再生の事業を行っているので、地質や気候条件などを気にかけるようになったので、見るもの聞くもの勉強にならないものはない。したがって、滅多に出来ない体験も「風流」として受け止めることが出来るようになってきた。

また、各地を歩くことによって、相對的に樹木葬の里を演出する磐井丘陵帯の素晴らしさが分かつてくる。この自然の美しさを皆様に知っていただきたく、この度、『樹木葬和尚の自然再生―久保川イーハトーブ世界への誘い―』（地人書館）を出版することになりました。ぜひ、お読みいただき「樹木葬の里」の理解を深めてください。



定価：1,890円(税込み)

(株)地人書館

〒162-0835 東京都新宿区中町15番地
Tel:03-3235-4422/Fax:03-3235-8984